

寺婦のひろば



3月7日、寺婦研修会の様子

「花咲かす見えぬいのちを春といふ」。寒くて長い山陰の冬が過ぎ去り、草木が芽吹き始める季節が巡ってきました。自ずと気持ちも明るく弾みます。

五十年に一度の大遠忌法要は、昨年四月九日から六十五日間にわたり、百十五座が本山・御影堂においてつとめられ、本年一月十六日にご満座を迎えました。この法要の始まる直前の三月十日に東日本大震災が発生し、二万人に近い多くの生命が奪われました。その後も各地で地震、豪雨、豪雪に見舞われた一年となりました。

親鸞聖人九十年のご生涯の時代背景を訪ねてみれば、幼年期から青年期にかけては、歴史的にも大きな転換期に当たります。源平が霸権を争い、貴族政治から武家政治へと変わろうとする激動の時代でした。また自然災害による飢饉や大地震にも、聖人は多く遭遇されています。

私たちも今、大きな転換点に立たされています。大震災と原発事故は今後も長きにわたつて生活のあらゆる分野に影響を及ぼすことでしょう。当たり前のように使っていたエネルギーを

新たな始まり

大家組

西臨寺

荒本由

未

はじめ、水・土・空気さえもうではなかつたと思い知らされました。世の中の仕組みや生活自体の見直しの動きも現れています。先が見えない時代の空気、不安定な政情、地域の実情等を考へると、決して安閑とはしていられません。お寺も変化の大波にのみ込まれそうです。そんな中で新しい年度を迎えると、決して不安なことはありません。しかし、今の時宗門も時代即応の基盤確立に向けて、これから宗派と本山本願寺が独自の執行体制を取ることとなりました。しかし、今の時点では何もわかりません。具体的な進路、指針がわからないといたことはほど不安なことはありません。教区・組・寺院も新しい体制でスタートするということになります。

ご門主さまのご満座のご消息に「本願念佛のご法義は、時代が変わり、社会が変わつても、に」とあります。そこを立脚点として、これからのがわることはありません。この体制でスタートするといふことになります。

前記の句をあじわうことのできる心持ちを、お寺に住まわせていただく私たちは、これからも大切にしたいと思います。合掌

宗祖親鸞聖人七五〇回大遠忌法要に参拝して

市山組 長玄寺 岡本一代

五十年に一度の御縁にご門徒と一緒に本願寺にお参りをさせていただき、普段はゆつくりとお話のできない方とも色々とお話ができ、二泊三日という大切な時間はとても有意義な時間でした。

昨年の三月十一日、東日本大震災にみまわれ、たくさんの方が被災され、心の痛む思いをいたしました。その中でこの大法要がどうなるだろうかと心配された方もおられたことでしょう。自肅ムードの中

中、予定通り法要が行われ、私たちに心の拠り所が何処にあるのかを再確認させていただいた法要だったのではないで

しょうか。

「心に染み入るものがありますた。」と言つてくださるご門徒の言葉に嬉しさを覚えました。

架け出しがなされた御影堂、普段とは違う赴きとなり、大遠忌が勤修されているという活気が伝わってまいりました。参拝した日は音楽法要に遇わせていただき、みなさん口々に「よかつたね。よかつたね。」

ご真影様の前に座らせていただき、手を合わせ、お念佛を称えることのできた幸せをありがたく感じ、これからもその時の心を忘れずに、ご門徒の皆様とともに日々お育てをいただきたいと思いました。合掌

2011(平成23)年度

寺族婦人研修会 参加報告



神門組 長楽寺

藤野更奈(寺族)

今回、研修会において仏花の立て方を学べると聞いて、是非参加したいと思いました。センスのない私は花を立てても雑然としたものしか立てられないからです。

研修会は、午前は莊厳について色々と学び、午後は仏花の実技を習いました。同じグループの方の「ただ花瓶に花を挿すだけだと思っていたのに」と言われた言葉が印象的になるくらい、様々な道具を使つて下準備をしつかりしてから花立てをするということに驚きました。

しかしその理由を聞いてとても納得できました。仏花と生け花の違いがそこにありましたからです。

生け花は花そのもののバラ

ンスが大切です。しかし仏花は莊嚴全体の中でのバランスが大切なことです。言われて改めて気付きました。

当たり前の事であります。仏花は仏様が主役であります。

花ではない事を失念していました。

花立てについては基本の真と前置について教えて頂きました。

時間が少なく、基本の基本しか習う事ができなかつたのが残念でしたが、色々と気付かされ知る事ができた素晴らしい時間であつたと感謝しています。

合掌

因播組 光賢寺

西池明子

この度の研修会の案内に、御本山仏花担当の「花新」さん直々にご指導下さること

を知り、是非参會させていただきたいと思い申し込み致しました。

当日は百三十名近い大勢の参會者の方々があり、皆様の正式な仏花に対する関心の高さを感じました。ご講師は、徳川先生・水本先生の両氏がご指導下さいました。

お莊嚴について徳川先生のご講義では、仏具の役割と意味をご説明いただき、御本山での主な法要の仏花の形や花材。又、阿弥陀堂・御影堂のお莊嚴の違いや、御正當の特別なお莊嚴を詳しく聞かせていただきました。

仏花の立て方実践では、一班十二・三人で、一瓶の仏花を生けました。根本的に生け花と違い、あくまでご本尊を中心としたお莊嚴の一部で、それぞれの内陣に合つた高さや横の



仏具を考え、動きを少なくどつしりと生けること。実技では、各班を回りちょっととしたコツなど丁寧にご指導下さいました。

この度の研修会で深めさせていただきました事、自坊で活かして参りたいと思います。

合掌



二〇一(平成二十三)年度 若寺婦研修会に参加して

邑智東組 明覺寺 奥田 元子

八月三十日、邑智東組高善寺様にて山陰教区若寺婦研修会が開催されました。

午前中は、『今坊寺に求められること』についての講話でした。講師は、教区基幹運動推進委員会副会長の澤田隆之師と、

心理療法士として活躍されている武田正文師のお二人でした。

前半は澤田師のお話でした。人間は悩みから抜け出したいと願いながら生活をしています。悩みから逃げるのではなく、しつかり受け止めていく覚悟が必要なのだな、と思いました。

「坊守は、心に悩みを抱えている人と関わり、地域社会と繋がり、良き聞き手となることが大切です」とおっしゃった言葉がわたしの心に残りました。

後半の武田師のお話は対話の進め方、相槌の打ち方など具体的に講演されました。大事なことは、相手の話をしっかりと聞くことと共感することであり、答えを与えることではないということを教えていただきました。「聞く」と

いうことは本当に難しいことだと思いました。



坊守という責任を持つ者同士、有り難い一日を過ごさせていただきました。

合掌

午後からは、石見銀山とも縁のある資料室で、保全委員会の森脇さんと今田さんに歴史をレクチャーしていただきました。八百二十年前に銀山が発見されてから、江戸時代には天領として発展していくそうです。間歩(坑道)、精錬所跡なども回りながら案内していただきました。

教化センター落成を
記念して寺婦連盟
から寄贈しました。

・ 演台

・ 聖典 (百冊)

・ 書棚

・ ポット

編集後記

親鸞聖人七五〇回大遠忌法要も無事終わり、新しい一步を踏み出しました。三月に行いました研修会—仏花の立て方には多数の参加があり、驚きとともにうれしい悲鳴をあげました。さすが寺族女性、日頃の成果を発揮され、てきぱきとお花と向かい合つておられました。これを機会に各組小グループでの研修がなされることを期待します。四月からは新組(変わらない組も有りますが新ブロックのスタートです。)今までの連携を強め新連盟の活性化に努めます。本号の発行にご協力を頂いた皆様に厚く御礼を申上げます。最後に私事ですが六年間教区寺族連盟の代表を勤めさせていただいた中で数多くの貴重な体験・経験に触れさせていたいことをございました。また皆様の暖かいご支援・ご協力を深く感謝申上げます。ありがとうございました。(福屋組 清念寺 服部やよ生 合掌)